

特別企画 近畿地区の菓子メーカーの経営実態調査

インバウンド消費の拡大で売上増加

～小麦、乳製品、カカオなどの原料高の懸念材料も残る～

はじめに

2月から3月にかけて、バレンタインデーやホワイトデーなどのイベントが続き、菓子メーカーは繁忙期を迎える。小売ベースで約3.17兆円と推計される菓子市場でも近時は、チョコレート菓子の原料となるカカオ価格の上昇や円安の影響で、販売価格の値上げに踏み切る菓子メーカーも出始めている。さらに、酪農家の減少によるバター不足や、その他原材料価格の高騰など業界への影響が懸念される。

帝国データバンクは、2015年1月時点の企業概要データベース「COSMOS 2」（145万社収録）の中から、2013年度（2013年4月～2014年3月期）決算の年売上高が判明した近畿地区の菓子メーカー91社（年売上高10億円以上、一部推計値を含む）を抽出。売上高総額の推移、損益状況、府県・業歴別に分析した。

調査結果（要旨）

1. 近畿の菓子メーカー91社のうち、2013年度および2012年度決算の年売上高が判明した89社を対象に各年度の年売上高総額をみると、2013年度は5503億5900万円となり、2012年度（5258億5000万円）比で245億900万円の増加（5.2%増）となった。
2. 2013年度および2012年度決算の当期純損益が判明した73社を比較すると、2013年度は「黒字」企業が89.0%（65社）となり、全体の約9割を占めた。一方、「赤字」企業は11.0%（8社）となっており、前年度比1.4ポイント上昇した。
3. 業歴30年以上が全体の80.3%を占めた。「100年以上」が18社（構成比19.8%）となり、全国（79社、構成比16.7%）と比べると割合が3.1ポイント高くなっている。

1. 売上状況 ～売上高総額は2012年度比274億3700万円増加

近畿の菓子メーカー91社のうち、2013年度および2012年度決算の年売上高が判明した89社を対象に各年度の年売上高総額をみると、2013年度は5503億5900万円となり、2012年度(5258億5000万円)比で245億900万円の増加(5.2%増)となった。

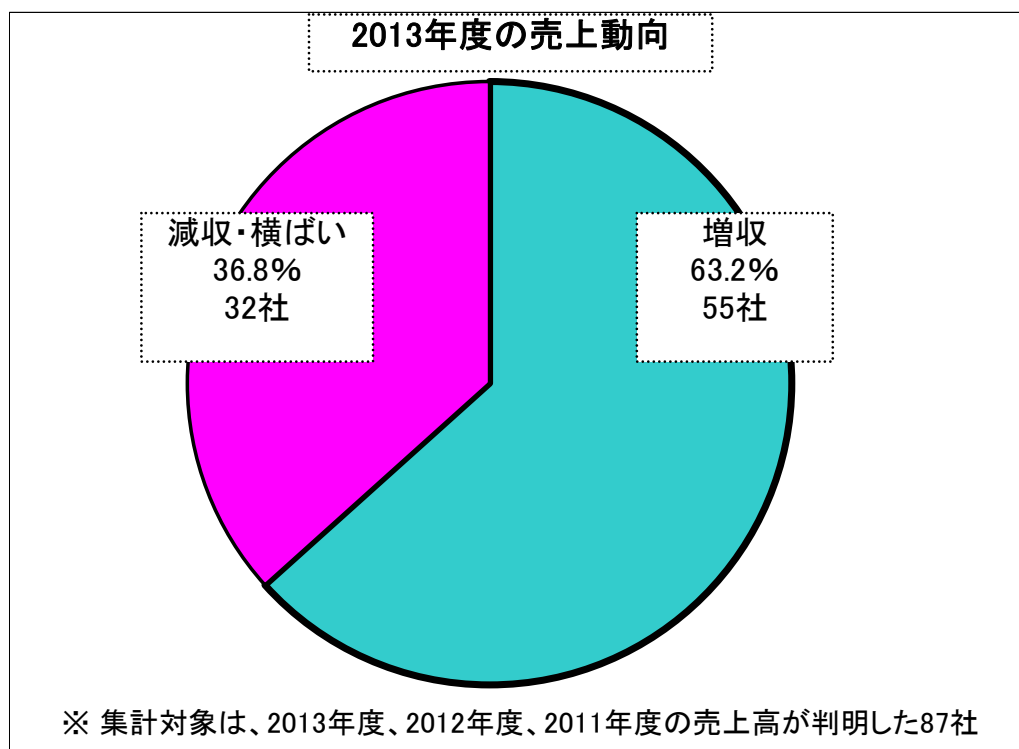
	売上高総額 (百万円)	
		前年度比
2012年度	525,850	—
2013年度	550,359	5.2%

また、2013年度、2012年度、2011年度決算の年売上高が判明した87社の動向をみると、「2期連続増収」企業は43社(構成比49.4%)となった。一方、「2期連続減収」企業は11社(12.6%)となった。

業績比較

	2012年度		2013年度	
	社数	構成比	社数	構成比
減収	23	26.4%	29	33.3%
横ばい	6	6.9%	3	3.4%
合計	87	100.0%	87	100.0%

※3期連続で年売上高が判明している企業を集計



2. 損益状況 ～黒字企業が約9割を占める

2013年度および2012年度決算の当期純損益が判明した73社を比較すると、2013年度は「黒字」企業が89.0%（65社）となり、全体の約9割を占めた。一方、「赤字」企業は11.0%（8社）となっており、前年度比1.4ポイント上昇した。

2013年度の当期純損益が判明した「全国」の「黒字」企業（319社、構成比82.6%）と比べて近畿の「黒字」企業（65社、構成比89.0%）と6.4ポイントの差があった。これは近畿への観光客の増加も一因と考えられる。関西国際空港の外国人客が2014年度上半期国際線で初めて日本人を上回った。ユニバーサル・スタジオ・ジャパンやあべのハルカスなど観光名所の誕生や歴史的建造物が多く現存するため関西圏への追い風になっている。

また、2013年度、2012年度、2011年度決算の当期純損益が判明した70社の動向を見ると、「3期連続黒字」となった企業は54社（構成比77.1%）となった。一方、「3期連続赤字」となった企業はなかった。

損益比較(近畿)

	2012年度		2013年度	
	社数	構成比	社数	構成比
黒字	66	90.4%	65	89.0%
赤字	7	9.6%	8	11.0%
合計	73	100.0%	73	100.0%

※各年度において、当期純損益額が判明している企業を集計

損益比較(全国)

	2012年度		2013年度	
	社数	構成比	社数	構成比
黒字	337	87.3%	319	82.6%
赤字	49	12.7%	67	17.4%
合計	386	100.0%	386	100.0%

※各年度において、当期純損益額が判明している企業を集計

3. 府県別 ～滋賀は3社全て、京都では76.5%の企業が増収

2013年度の売上高が判明した91社を府県別で見ると、「大阪」が42社（構成比46.2%）と最多となり、次いで「兵庫」の25社（構成比27.5%）、「京都」の18社（構成比19.8%）となった。91社のうち2013年度および2012年度の年売上高が判明した88社を府県別にみると、増収企業の割合が最も高かったのは「滋賀」（3社、構成比100.0%）。次いで「京都」（13社、構成比76.5%）となり、「兵庫」（16社、構成比66.7%）、「大阪」（24社、58.5%）と続く。

府県別	社数	
	社数	構成比
滋賀	3	3.3%
京都	18	19.8%
大阪	42	46.2%
兵庫	25	27.5%
奈良	2	2.2%
和歌山	1	1.1%
合計	91	100%

一方で府県別に損益を比較すると黒字では「大阪」（32社、構成比97.0%）の割合が特に高くなった。また赤字でみると「奈良」（1社、構成比50.0%）が最も高く、次いで、「兵庫」（4社、構成比22.2%）と続いた。兵庫県では昨年11月に人気洋菓子店「西洋菓子処フーケ」を運営していたフーケ（株）の倒産が発生。数年前まで年売上高10億円を超えていた企業でも同業者間の競争激化に巻き込まれる形となった。

2012年度～2013年度の地域別増収・減収比較 (社数)

地域別	増収		減収		横ばい		合計
	増収	構成比 (%)	減収	構成比 (%)	横ばい	構成比 (%)	
滋賀	3	100.0					3
京都	13	76.5	4	23.5			17
大阪	24	58.5	15	36.6	2	4.9	41
兵庫	16	66.7	8	33.3			24
奈良			1	50.0	1	50.0	2
和歌山			1	100.0			1
合計	56	63.6	29	33.0	3	3.4	88

2013年度の地域別損益比較 (社数)

地域別	黒字		赤字		合計
	黒字	構成比 (%)	赤字	構成比 (%)	
滋賀	3	100.0			3
京都	15	88.2	2	11.8	17
大阪	32	97.0	1	3.0	33
兵庫	14	77.8	4	22.2	18
奈良	1	50.0	1	50.0	2
和歌山	1	100.0		0.0	1
合計	66	89.2	8	10.8	74

4. 業歴別 ～業歴 30 年以上の老舗企業が 8 割を占める

2013 年度で売上高が判明した 91 社を業歴別でみると、「50 年～100 年未満」が 42 社（構成比 46.2%）となり、次いで「100 年以上」が 18 社（同 19.8%）となった。業歴 30 年以上が全体の 80.3%を占めていることから、全業種のなかでも老舗企業が多い業種と言える。特に全国と比べると「100 年以上」（79 社、構成比 16.7%）の割合が 3.1 ポイント高い。

売上高が判明した 91 社で、2013 年度および 2012 年度決算の年売上高が判明した 88 社を業歴別でみると、「100 年以上」の長寿企業 17 社のうち、58.8%が増収となった。「100 年以上」の長寿企業には、（株）聖護院八ツ橋総本店（京都市左京区、1689 年創業）、（株）笹屋伊織（京都市下京区、1716 年創業）、（株）俵屋吉富（京都市上京区、1755 年）など銘菓として知られる企業が並ぶ。また近畿で 18 社ある業歴「100 年以上」の長寿企業の中で 10 社が京都府に集中している。

業歴別（近畿）

業歴別	社数	構成比
		(%)
10年未満	2	2.2
10～30年未満	16	17.6
30～50年未満	13	14.3
50～100年未満	42	46.2
100年以上	18	19.8
合計	91	100.0

業歴別（全国）

業歴別	社数	構成比
		(%)
10年未満	11	2.3
10～30年未満	71	15.0
30～50年未満	95	20.0
50～100年未満	218	46.0
100年以上	79	16.7
合計	474	100.0

業歴別業績比較

業歴別	増収		減収		横ばい		合計
	社数	構成比 (%)	社数	構成比 (%)	社数	構成比 (%)	
10年未満			1	100.0			1
10～30年未満	8	53.3	7	46.7			15
30～50年未満	11	84.6	2	15.4			13
50～100年未満	27	64.3	13	31.0	2	4.8	42
100年以上	10	58.8	6	35.3	1	5.9	17
合計	56	63.6	29	33.0	3		88

【地域別売上高上位3社】

	TDB 企業コード	商号	所在地	2013年度 売上高 (百万円)	主なブランド・製品
北海道	010851052	(株)ロイズコンフェクト	北海道	18,000	生チョコレート、ポテトチップチョコレート
	030003362	六花亭製菓(株)	北海道	14,200	マルセイバターサンド、ストロベリーチョコ
	090100751	(株)ケイセイシイ	北海道	8,267	LeTAO(ルタオ)、ドゥーブルフロマージュ
東北	160003151	(株)でん六	山形県	18,698	でん六豆
	100424188	(株)菓匠三全	宮城県	7,717	萩の月
	190316568	(株)三万石	福島県	4,731	ままだおる、エキソンパイ
関東	985814507	(株)明治	東京都	164,300	ミルクチョコレート、カール、キシリッシュ
	600009030	カルビー(株)	東京都	155,037	ポテトチップス、じゃがりこ、かつぱえびせん
	985821600	森永製菓(株)	東京都	147,628	森永ビスケット、チョコボール、ハイチュウ
北陸	360003441	(株)ブルボン	新潟県	101,667	ルマンド、エリーゼ、アルフォート
	340100241	亀田製菓(株)	新潟県	73,698	亀田の柿の種、ぼたぼた焼、ハッピーターン
	340342073	(株)三幸	新潟県	45,686	雪の宿、ぱりんこ、チーズアーモンド
中部	968364052	(株)シャトレゼ	山梨県	41,831	シャトレゼ
	671001004	井村屋(株)	三重県	29,033	あずきバー、水ようかん
	395012284	(株)おやつカンパニー	三重県	16,500	ベビースター、フランスパン工房
近畿	580020051	江崎グリコ(株)	大阪府	151,124	ポッキー、ビスコ、ブリッツ
	530104331	(株)ユーハイム	兵庫県	32,055	ユーハイム、バウムクーヘン
	530038405	モロゾフ(株)	兵庫県	27,924	モロゾフ、チョコレート
中国	610011819	カバヤ食品(株)	岡山県	27,124	カバヤ、ゴールドチョコレート、ジューC
	690181381	壽製菓(株)	鳥取県	7,923	とち餅、因幡の白うさぎ
	610120681	(株)源吉兆庵	岡山県	7,319	福渡せんべい、陸乃宝珠
四国	740096604	(株)あわしま堂	愛媛県	11,581	あわしま堂、どらやき
	740044902	(株)ハタダ	愛媛県	4,333	ハタダ栗タルト、御栗タルト
	740086582	ルナ物産(株)	愛媛県	4,100	OEM商品(チルドデザートなど)
九州	810159303	(株)森田あられ	福岡県	9,696	餅のおまつり
	800001073	(株)石村萬盛堂	福岡県	6,300	鶴乃子、塩豆大福
	850122012	(有)和泉屋	長崎県	5,400	長崎カステラ、長崎しよこらあと、綺麗菓

※1 一部推計値を含む

※2 (株)明治は明治ホールディングス(株)が開示した決算短信(補足説明資料)の菓子事業の売上高を引用した

※3 (株)おやつカンパニーは2014年8月1日に(株)OCホールディングスに吸収合併され、同社は商号を(株)おやつカンパニーに変更し事業を引継いでいる

【近畿の売上高上位10社】

順位	TDB 企業コード	商号	所在地	2013年度 売上高 (百万円)	主なブランド・製品
1	580020051	江崎グリコ 株式会社	大阪府	151,124	ポッキー、ビスコ、ブリッツ
2	530104331	株式会社 ユーハイム	兵庫県	32,055	ユーハイム、バウムクーヘン、
3	530038405	モロゾフ 株式会社	兵庫県	27,924	モロゾフ、チョコレート
4	570006504	日清シスコ 株式会社	大阪府	17,197	ごろっとグラノーラ、ココナッツサブレ
5	530101222	株式会社 シュゼット	兵庫県	17,000	アンリ・シャルパンティエ、シーキューブ
6	580383497	フルタ製菓 株式会社	大阪府	15,000	セコイヤチョコレート、チョコエッグ
7	580272246	株式会社 エーデルワイス	兵庫県	13,323	アンテノール、ルビアン
8	580096793	ノーベル製菓 株式会社	大阪府	12,068	VC-3000のど飴、はちみつきんかんのど飴
9	501032272	株式会社 スイートガーデン	兵庫県	11,600	シュークリーム、カジュアルスイーツ
10	550046530	株式会社 たねや	滋賀県	10,701	最中、通年菓子、洋菓子

※1 一部推計値を含む

まとめ

近畿の菓子メーカーのうち、2013年度および2012年度決算の年売上高が判明した89社を対象に各年度の年売上高総額をみると、2013年度は5503億5900万円となり、2012年度（5258億5000万円）比で245億900万円増加（5.2%増）となった。

2014年度は、消費税増税に加え、円安や原材料、包装資材価格の高騰で、大手の食品・菓子メーカーにおいても数十年ぶりとなる価格改定に踏み切る企業も増加傾向にある一方で、OEMを手掛ける中堅企業は増加するコストを価格転嫁出来ず、赤字を余儀なくされる業者が散見された。一部のメーカーでは、値上げは売上げに響くため、内容量を減らす方向で検討する企業も出てきており、食品・菓子メーカーを取り巻く環境は厳しさを増している。

一方でアジアからの観光客が消費拡大の追い風になってきていることも見過ごせない。新関西国際空港（株）が2月18日に発表した運営概況（速報値）によると、1月に国際線を利用した外国人旅客数は前年同月比38%増の55万7490人になり、1月として過去最高の数字となっている。円安や観光名所の増加により、各有名ホテルの発表資料でも空室率は低下するなど波及効果は大きい。

今後は、消費税率10%への引き上げと同時に軽減税率の導入が検討されており、対象となる品目の区分や中小企業へのコスト増加が懸念されている。少子高齢化が進むなかで、インバウンド消費など新たな需要を発掘し、利益を確保できるか動向が注目される。

【内容に関する問い合わせ先】

株式会社帝国データバンク 大阪支社 担当：木下 優新

TEL 06-6441-3100 FAX 06-6445-9532

当レポートの著作権は株式会社帝国データバンクに帰属します。

当レポートはプレスリリース用資料として作成しております。報道目的以外の利用につきましては、著作権法の範囲内でご利用いただき、私的利用を超えた複製および転載を固く禁じます。